

科目名	社会調査実習	
担当者	河原 晶子 / KAWAHARA, Akiko	
科目情報	法ビジネス / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
	心理臨床<社会産業> / 選択 / 前期 / 実習 / 2単位 / 3年次	
科目概要	授業内容	実習を通して、調査の企画から報告書の作成までの「社会調査の全過程」をひととおり体験的に学習する。2013年度は、JR鹿児島中央駅そばの商店街「一番街」をフィールドにして、「再開発ビル建設計画が進行する中での地権者や店舗業者の再開発への期待と不安」をテーマに、受講生グループで調査する予定である。
	到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・調査という課題に即した実行力・計画力が身に付く。 ・「調査論の原理を現実条件や実践に応用」の考え方ができる。 ・「説得力」を意識したデータの分析と表現ができる。 ・社会的な事柄への問題関心を高め、問題関心を集中させた調査報告書が書ける。 ・グループでの調査活動に主体的に参加し、それを通して、人間関係形成力やコミュニケーション力が身に付く。
授業計画	<前期セメスター> (1) オリエンテーションによる調査テーマと実習の進め方の確認 (2) 調査問題についての学習（講義と演習によるグループ研究） (3) " (4) " (5) 現地観察 (6) 調査設計（仮説の検討・調査対象と調査方法の検討） (7) 調査項目の検討 (8) 質問文・回答選択肢の検討と決定 (9) " (10) インタビューとインタビュー・ノート作成の練習 (11) ワーディングのチェック・調査票の検討・実査の準備作業 (12) 実査1 (13) 実査2 (14) 実査3 (15) インタビューの集約と総括	<夏季集中期> (1) 実査後の処理1（回収調査票の点検・エディティング） (2) 実査後の処理2（ナンバリング他） (3) データ入力作業と度数分布表の作成 (4) データクリーニング・ロジックチェック (5) 調査結果の分析1（基本項目によるクロス集計とエラボレーション） (6) 調査結果の分析2（カイ二乗検定） (7) 調査結果の分析3（データによる仮説検証） (8) 調査結果の分析4（他に必要な分析手法の検討） (9) 分析結果の意味と見方1 (10) 分析結果の意味と見方2 (11) 分析結果の図表による表現と見せ方 (12) インタビュー情報の活用と記述の仕方 (13) 問題関心に焦点を当てた分析と報告書の作成1 (14) 分析・報告書の作成2 (15) 仮説検証となるような記述方法の学習
自学自習	事前学習	<ul style="list-style-type: none"> ・「使用教材・参考文献」を前もって読んでおくこと。 ・意味のわからない用語は辞書等で事前に調べておくこと。
	事後学習	時間中でできなかった分析や報告書作成のための知識収集を怠らないこと。
使用教材・参考文献	【教】大谷信介他 『社会調査へのアプローチ—論理と方法（第2版）』ミネルヴァ書房、2004年。また、必要に応じて、プリントを配布する。	
成績評価方法と基準	評価方法：実習への主体的な参加状況20%・最終の調査報告レポート80% 評価基準：問題関心の明晰性、分析とデータによる説得、その表現を含む「調査報告」としての最低水準に達していないものは不合格とする。	
備考	「社会調査士」資格取得のための必修科目である。	